

慢性痛
急性痛

香曾我部義則先生の今月のカルテ

vol.85

ペインクリニックの現場から

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生と藤井洋泉先生が、痛みの治療や緩和についての情報を届けてくれる「ペインクリニックの現場から」。今回から3回にわたり、香曾我部先生が「脊椎(せきつい)手術後疼(とう)痛症候群」について話をしてくれます。



■プロフィール こうそがべ・よしのり
昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会指導医、日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

腰下肢痛、しびれ、脱力などの神経根症状や、馬尾症状を生じる腰椎椎間板(ようついつい)かんばん)ヘルニア、変性すべり症、脊柱管狭窄(さく)症に対して脊椎手術が行われます。手術を行

います。

また手術により、機能や疼痛が改善しても、日常生活や社会生活で、支障が残ることで患者さんの満足が得られない病態も脊椎手術後疼痛症候群に含まれます。つまり患者さん自身の評価が主体で、手術の失敗を意味するものではありません。

原因は①手術前の診察をすれば創部が修復されても傷あとが残り、癒着が起ることは避けられませんが、複数の要因が重なり、神経過敏状態となり、帯状疱疹(たいじょうほうしん)後神経痛に似た知覚過敏や、神経障害性疼痛を起すことになり、また椎間関節や椎間板を切除するなどで、椎間関節が不安定になると腰痛を引き起こします。

術後、適切な運動や筋力トレーニングを行わないと、脊柱を支える筋肉が衰え、筋肉由来の痛みが起りやすくなります。術後早期から症状が現れる場合だけでなく、術後1年(1)、2年(2)症候群が軽快しても、手術前

術後経過不良症例「脊椎手術後疼痛症候群」
原因は、手術中の因子だけでなく、心理的社会的因子も

原因は②手術前の診察をすれば創部が修復されても傷あとが残り、癒着が起ることは避けられませんが、複数の要因が重なり、神経過敏状態となり、帯状疱疹(たいじょうほうしん)後神経痛に似た知覚過敏や、神経障害性疼痛を起すことになり、また椎間関節や椎間板を切除するなどで、椎間関節が不安定になると腰痛を引き起こします。

術後、適切な運動や筋力トレーニングを行わないと、脊柱を支える筋肉が衰え、筋肉由来の痛みが起りやすくなります。術後早期から症状が現れる場合だけでなく、術後1年(1)、2年(2)症候群が軽快しても、手術前

術後経過不良症例「脊椎手術後疼痛症候群」
原因は、手術中の因子だけでなく、心理的社会的因子も

術後経過不良症例「脊椎手術後疼痛症候群」
原因は、手術中の因子だけでなく、心理的社会的因子も

03(03)00000000

03(03)00000000